

## 第5回思川開発事業生態系保全委員会議事録

日 時：平成20年3月10日（月） 14：00～16：00

場 所：独立行政法人水資源機構思川開発建設所 会議室

出席者：三島次郎委員長、青木清治委員、小金澤正昭委員、齋藤隆史委員、  
酒井豊三郎委員、櫻井正美委員、杉田勇次委員、高橋滋委員(敬称略、五十音順)

議 事：

### 1. 第4回委員会議事の確認

事務局より、第4回委員会における議事次第および議事の概要について説明があり、承認した。

### 2. 思川開発事業の進捗状況

事務局より、本年度の状況説明と、主に今後の各工種の内容とそれらの実施予定について説明があり、了解した。

### 3. 環境保全への取り組みの進捗状況

事務局より、平成19年度の環境保全への取り組みについて説明があった。なお、平成19年度の取り組みは、保全対策実施段階への移行、保全対策が具体化できていないものの検討、ダム下流河川についてが、今後の課題である旨の説明があった。

### 4. 今後の環境保全について

事務局より、今後の環境保全に対する取り組みについて説明があった。これに対し、以下のコメントをした。

#### (1) ワーキンググループについて

- ・ワーキンググループのグループリーダーについては、小金澤委員を任命する。
- ・当面は原案の5名体制で開始するが、機動性等で問題があれば改変する。
- ・リーダー選任過程の条文を矛盾の無い様に整理されたい。
- ・ワーキンググループ設置の目的を条文で明記されたい。

#### (2) 環境巡視について

- ・ワーキンググループとの連携について記述を加えるべきである。
- ・巡視の記録はきちんと保存し、委員が自由に閲覧できる仕組みを構築願いたい。

### 5. 平成20年度調査計画（案）

事務局より、平成20年度の調査計画の案について説明があり、これについて承認した。これに対し、以下のコメントをした。

- ・アカガエル類の調査時期は出来るだけ早めたほうが良い。
- ・ムカシヤンマの調査に関しては、(幼虫が見つからないならば)トラップ調査を追加し、調査範囲を奥側に拡大すると良い。
- ・粟沢の道沿いにミツバベンケイソウが生育しているが、珍しいものであり、移

植を行って欲しい。

(事務局：移植先も確定しており、移植予定である。)

- ・(エコトープの整備方針に絡み) どの様に動植物を導入するか、外来種の問題をどの様に解決するか、よく考えて実施されたい。
- ・魚類では、ブラックバス(コクチバス、オオクチバス)、ブルーギルが県内のため池などに蔓延しているが、駆除に成功した例は中禅寺湖のみで、侵入すると駆除は非常に困難である。
- ・外来種は環境巡視の主要なテーマとして実施されたい。

## 6. その他

事務局より、本日欠席の桜井委員よりヒアリングした意見について報告があった。また、議事全体について、以下のコメントをした。

- ・工事の内容についての事前説明をきちんと行って欲しい。
- ・冷水放流が稲作に影響を与えないように配慮願いたい。
- ・「谷底平野を流れる小規模な河川」という区分・表現は誤解を生じやすいので、表現を再検討願いたい。
- ・今後の工事予定(箇所)を工程ともにもう少し詳しく示し、保全について提案した後、事業・工事を進めるように図られたい。
- ・林道沿いの緑化は外来種・牧草等を避け、検討すること。

以上